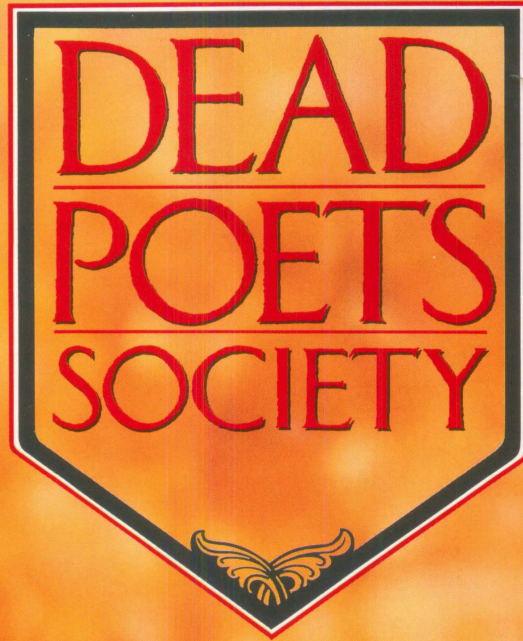


# ロビン・ウィリアムス

その人はひらめきと、そして人生の素晴らしさをおしえてくれた…。

## いまを生きる

ピーター・ウイアー作品



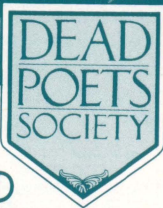
タッチストーンピクチャーズ提供/シルバースクリーン・パートナーズIV共同提供/スチューブ・ハフトプロダクション  
共同製作ウィット・トーマスプロダクション/ピーター・ウイアー作品/ロビン・ウィリアムス主演「デッド・ポエツ・ソサエティ」  
音楽モリス・ジャール/撮影ジョン・シール、A.C.S./脚本トマス・マッシュルマン  
製作スチューブ・ハフト&ホル・ジャンガー・ウィット&トニー・トーマス/監督ピーター・ウイアー

DOLBY DIGITAL

© 1998 TOUCHSTONE PICTURES

TOUCHSTONE  
PICTURES





## これは、あなた自身の あるいは、あなたの子供たちの ドラマかもしれない!

誰が涙を流さずにいられるだろうか…。この映画が持つ感動はあまりに激しく大きい。誰もがとても優しい気持ちになり、心の奥から噴き出てくる熱いものを、押えられなくなってしまおう—。

湖と緑に囲まれ、一見のどかな郊外の寄宿学校。だが、少年たちは受験勉強に追われ、自由に将来を夢みることも忘れてしまっている。親たちの盲目的な期待に応えようと、ひたすら大学をめざす少年たちの哀しいまでのけなげさ…。そして今、一人の教師の熱いハートが、7人の少年たちに、今日という日を心のままにせいっぱい生きると語りかけた!

夢を持つ喜びを自分を犠牲にしてまで教えてくれた一人の教師と、去り行く彼を涙に濡れた笑顔で見送った少年たち。学校生活のなかで自分の夢を殺していく彼らは悲しい犠牲者であり、学歴社会の歯車の中で、いつしか夢みることを忘れてしまった私たちにも似ている。だからこそ、いっそう深く、その感動は誰の心にも突き刺さってくるのだろう。こんな教師に出会っていたら、ひよっとして自分の生き方も違っていたかも知れないと…。

全米の人々の心を涙で濡らし、大ヒットの喝采を浴びた巨大な感動の波が、いま日本にも広がろうとしている!



## 今、世界は心の涙をわかちあう!

詩と情熱、喜劇と悲劇、これらが混然一体となった素晴らしい作品である。監督ピーター・ウィアーの勝利である。

(ジュディー・ストーン/サンフランシスコ・クロニクル)

この作品を非凡なものにしているのは、考えの相違に出会う若者たちを描き、そして今の若者たちに、これからの人生をどう生き抜くかという質問をつきつけることである。ロビン・ウィリアムスの新たな一面を見せる見事な演技。質の高いコメディ、失恋、悲劇を見せるドラマである。

(マイク・マグラディ/ニューヨーク・ニュースデイ)

この作品には人生のすべてが詰まっている。人が恋に落ちたり、誰かに触発されたりするのを見てると驚嘆する。またロビン・ウィリアムスのぞくぞくする程の多才な演技にも驚かされる。

観ても絶対に損のない作品である。

風景の素晴らしさと若き俳優達のシャープさがこの映画をさらに素晴らしいものになっている。ウィリアムスも以前の作品がかすむ程に素晴らしい演技をしている。

本当に素晴らしい作品である。一本の作品の中に笑いもある、涙もある。この作品に暖かさが溢れている証である。この作品に打ちのめされてしまった。

(デビッド・シーハン/NBC TV ロサンゼルス)

ピーター・ウィアー監督が描くこの映画は、社会的にも各自の心の中にも大きく変化する世界に投げ込まれた年頃の7人の少年を描いた非常に愛すべき作品である。ロビン・ウィリアムスはユーモアに溢れ、真摯で愛すべきキーティング先生を彼自身の魅力を損なわずに演じている。否、それ以上のものを我々に与える。彼の醸し出す暖かみが大変リアルなので出演者の少年達の様に観終わった後、あなたも彼とならどこへでも一緒についてゆこうと思うだろう。

これは観るに値する作品である。ウィリアムスは教え子達に「今を生きろ」「Seize the day」(ラテン語でCarpe Dien)と教える。

心に残るセリフである。「Seize the opportunity」「観のがすな」  
(ハング・ガロ/デイリー・ニュース)

ロビン・ウィリアムスは詩をふりまく天使の様に輝いている。この作品は尊敬するものは何か、見せかけのものは何かを問いかけている。他のほとんどの映画では試みようとするさしなない事をこの映画では正面から捉えている。宗教社会の野蛮さに対して、美に対する鈍さに対して怒りの涙を流すことである。それはまた、この映画を観て触発された先生がとまどう生徒に新しい世界を教えようとする感情に対するエレジーでもある。

(マイケル・ウィルミントン/ロサンゼルス・タイムス)

欠点の全く無い、素晴らしい作品である。オスカー候補はこの作品から始まる。

(ジョアンナ・ラングフィールド/LBSムービー・ミニッツ)

ハリウッドでも、まだ素晴らしい作品を製作出来ることを証明した作品である。本年度のベストとも言える程素晴らしい。100点満点で100点以上をあげたい。

(ゲリー・フランクリン/ABC TV ロサンゼルス)

脚本は文学的な香りをただよわせている。映像も息をのむ程美しい。どこかしら痛ましさを感ぜさせるものもある。私はピーター・ウィアー監督をはじめ、この映画にかかわったすべての人々、キャストに大きな拍手を送りたい。この作品は映像芸術の長い歴史の中で近い将来必ずクラシック作品となる出来である。

(ジーン・シャリット/NBC TV トウデイ・ショー)

3月17日(土) 全ロードショー  
特別鑑賞券(一般1300円/学生1100円/全券2300円)発売中

有楽町・東宝映画街

ミヤ  
み ゆ き 座

03  
(591)  
5357